

## 平成 23 年社会生活基本調査から —高かった学習・自己啓発・訓練—

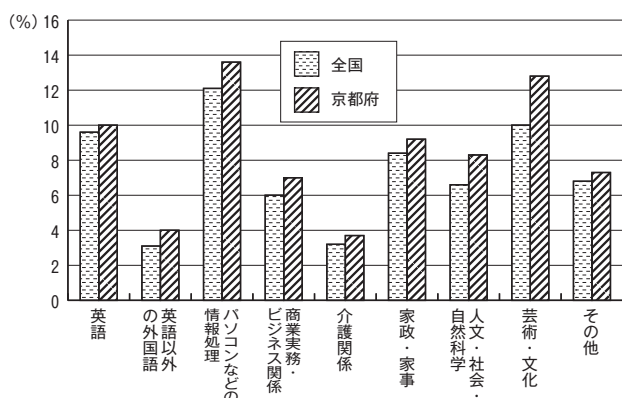
平成 23 年社会生活基本調査によると、過去 1 年間（平成 22 年 10 月 20 日から 23 年 10 月 19 日まで）に「学習・自己啓発・訓練」などの行動を行った人（10 歳以上）の割合（以下 行動者率）は京都府が 37.9% で全国第 5 位でした。（表 1）

「学習・自己啓発・訓練」の種類別の行動者率を全国と比較してみると、全ての種類において京都府は全国の値を上回っています。

表 1 都道府県別「学習・自己啓発・訓練」総数の行動者率

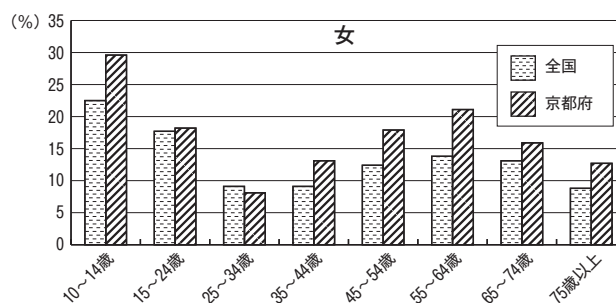
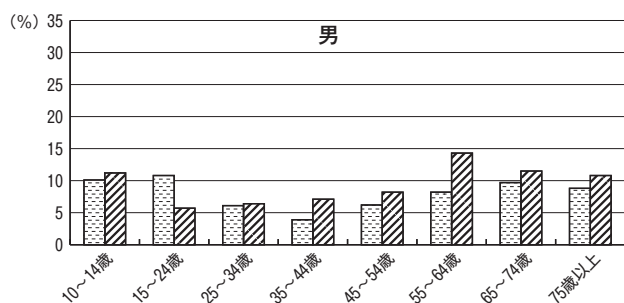
| 順位   | 都道府県 | 行動者率  |
|------|------|-------|
| 1 位  | 東京都  | 44.7% |
| 2 位  | 神奈川県 | 42.1% |
| 3 位  | 滋賀県  | 39.2% |
| 4 位  | 奈良県  | 38.4% |
| 5 位  | 京都府  | 37.9% |
| 6 位  | 千葉県  | 37.7% |
| 7 位  | 兵庫県  | 37.1% |
| 8 位  | 埼玉県  | 36.8% |
| 9 位  | 大阪府  | 36.5% |
| 10 位 | 宮城県  | 35.8% |
| 10 位 | 長野県  | 35.8% |
| 全国平均 |      | 35.2% |

図 1 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率



その中でも最も全国との差が大きかった「芸術・文化」を性別・年齢別に見てみると男性は 15～24 歳、女性は 25 歳～34 歳以外の全ての世代で全国の値を上回っており、その差は、55 歳～64 歳では男性は 6.1 ポイント、女性は 7.3 ポイントと最も大きくなっています。（図 1 図 2）

図 2 「芸術・文化」の年齢別行動者率



### 「芸術・文化」の例

絵画 油絵 彫刻 版画 造形 アニメーション 手工芸 グラフィックデザイン インテリア  
 デザイン 映像デザイン 音楽の一般論 声楽 作曲 指揮 音響芸術 楽器演奏 劇音楽  
 俳優養成 舞踏 能楽 放送芸術 映像芸術 人形劇 大衆芸能 写真 撮影技術 映像 印画  
 写真芸術 書道 ペン字 レタリング

出典：社会生活基本調査（総務省 統計局）